

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1年

科目名	キャリアガイダンス(688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	大内 香那子・森田 紗季				実務経験内容	
					[森田] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。 [大内] 求人情報会社にて採用コンサルティングに従事したのち、企業人事として多くの学生の選考に携わった後、キャリアコンサルタント・研修講師として活動を行っている。キャリアデザイン・ビジネスマインドセット・コミュニケーション活性を専門としており、これらの経験を活かして本授業の将来を考え、就活に前向きになるしくみを構築している。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教室	355 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびやふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教科書 教材	仕事力を身に付ける20のステップ FOM 出版 富士通エフ・オー・エム株式会社 著 (毎授業で使用)					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回	
【前期】	
1～2 回	授業の目的と振り返りシートの理解、就職活動への意識を高める
3～4 回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する、挨拶の大切さ①
5～6 回	意見をつくる個人ワーク
7～8 回	意見交換実践のグループワーク
9～11 回	自己理解、仕事理解、グループでの調べワーク
12 回	グループワークを活かし、専門学校での学びのつながりを考える
13～14 回	自己 PR が必要な理由
15 回	自己 PR 作成ワーク
16 回	前期の振り返りと自己 PR 作成の好事例共有 → 修正してみよう
●授業時間：2 単位時間/回	
【後期】	
1 回	社会人とは・学校と職場の違い、学校での過ごし方で意識すべきこと、挨拶の大切さ②
2 回	組織内でのコミュニケーションにつながる学校内での過ごし方
3 回	グループ制作と発表（プレ社会人としての、学校での過ごし方の工夫）
4 回	就活スケジュール確認と先輩への質問を考えるワーク、グループワークの説明
5～7 回	就職活動トークセッション、グループ制作と発表
8 回	ビジネスマナーってなんだろう
9 回	正しい敬語を身につけて、就活シーンに活かそう
10～11 回	履歴書とエントリーシートの書き方、応募書類の書き方
12～14 回	面接官は何をみているのか、面接で自分を表現する準備をしよう、面接体験をしてみよう
15～16 回	1年間での成長変化・卒業後どうなっていたいか、考えよう ガクチカを作成しよう

評価コード	11
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。</li> <li>・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。</li> <li>・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1年

科目名	演出論(910)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	川崎 慎也				実務経験内容	
					[川崎]シナリオライターとして培ってきた知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像・イベント・演劇などのシナリオについて実例を交えながら説明する。どうすれば効果的な演出になるかを学生に問いかけ、一緒に考えながら授業を進めていく。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
グループワークを中心に、能動的に授業に参加できる仕組みを展開していく。必要に応じて、演出例をスクリーンに映し解説していく。						
教科書教材	なし					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1～2 回 演出導入</p> <p>2～4 回 5W2H とは</p> <p>5～6 回 報連相について</p> <p>7～8 回 現場におけるコミュニケーションについて</p> <p>9～10 回 映画における演出方法</p> <p>11～12 回 作品の権利について</p> <p>13～14 回 シチュエーションごとの演出</p> <p>15～16 回 前期まとめ</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>17～18 回 前期の復習と後期の説明</p> <p>19～20 回 CM の演出方法</p> <p>21～22 回 PV, MV, VP などの違い</p> <p>23～24 回 報道番組の演出方法</p> <p>25～26 回 ドキュメンタリー番組の演出方法</p> <p>27～28 回 バラエティ番組の演出方法</p> <p>29～30 回 ドラマの演出方法</p> <p>31～32 回 後期まとめ</p>
--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1年

科目名	映像論(567)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	安田 雄太				実務経験内容	
					[安田]映像業界で制作技術を経験して培った映像関連の知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像技術の基礎的な知識を学ぶ。カメラの構造や映像システムの構築など、実際の社会での用途を例にとり、理論的に理解する。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
映像に関する知識を講義し、学生に考えさせながら進めていく。必要に応じて、映像をスクリーンに映し解説していく。						
教科書教材	なし					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1～2 回：映像/基礎知識①</p> <p>3～4 回：映像/基礎知識②</p> <p>5～6 回：映像制作の仕事とスタッフの役割</p> <p>7～8 回：カメラ技術 1（カメラ機能）</p> <p>9～10 回：カメラ技術 2（撮影方法）</p> <p>11～12 回：カメラ技術 3（特殊撮影）</p> <p>13～14 回：カメラワークの基礎</p> <p>15～16 回：前期まとめ</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>17～18 回：映像/基礎知識③</p> <p>19～20 回：録音・音声</p> <p>21～22 回：映像・照明</p> <p>23～24 回：ENG の仕組み</p> <p>25～26 回：放送技術（無線伝送等）</p> <p>27～28 回：映像とは（コンテンツの将来）</p> <p>29～30 回：最新映像技術について</p> <p>31～32 回：まとめ</p>
---

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	音響論(911)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部 進				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
イベントや映像制作における音響演出の魅力を紹介しながら、音響機器の種類や機能に関する基礎知識を講義する。さらに、音の收音方法や音響・音声業務の運用技術についても学ぶ。即戦力となるために、音響用語や機材の用途・種類（名称や型番）、内部構造、付属機器の知識まで幅広く習得する。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
機材や図面や配置図などをスクリーンに映しながら、解説していく。必要な時には、学生にプリントを配布し、課題を行って最後に解説を行う。						
教科書 教材	サウンドバイブル<The Theatrical Sound Engineer's Bible><第1版> 兼六館出版 八板賢二郎 著（毎授業で使用） プロ音響データブック<五訂版>リットーミュージック 日本音楽家協会 著（毎授業で使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回
【前期】
1～2 回 科目のガイダンス（音の3要素【音の大きさ、音の高さ、音色】、音響の仕事）
3～4 回 音響の仕事
5～6 回 音の性質（両耳効果、音速、ドップラー効果、気温による音の変化など）
7～8 回 マイクロフォン（構造的分類、指向別分類、用途別分類、代表的なもの）
9～10 回 再生装置
11～12 回 スピーカ（音の出る仕組み、キャビネット、帯域ごとに鳴らす（パッシブ、アクティブ）、仕様
13～14 回 パワーアンプ（仕様【特に消費電力】）
15～16 回 ケーブル、コネクター、その他小物（マイクスタンドなど）
●授業時間：2 単位時間/回
【後期】
17～18 回 マイクロフォン、D I などによる收音方法
19～22 回 ミキサーの取り扱い
23～24 回 メインスピーカーの再生方法（ワンボックス、マルチアンプ）
25～26 回 モニターの原理とハウリングとその対策
27～28 回 エフェクターの種類と原理と接続方法
29～30 回 ワイヤレスマイクの仕組み
31～32 回 音響業務に伴うデジタル技術

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	照明論(912)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
照明業界で役立つ基礎的な内容を学び、知識や技術を習得することを目的とする。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
授業の開始時に前回の復習を行い理解を深める。教科書だけでなく、照明機材などの写真をスクリーンに映し説明しながら授業を進めていく。前後期末にノートを集めて、確認する。						
教科書教材	舞台・テレビジョン照明<基礎編> 日本照明家協会（毎授業で使用） 舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（毎授業で使用）					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1～2 回 光の性質、色温度</p> <p>3～4 回 カラーフィルター、レンズスポットの構造</p> <p>5～8 回 灯体の種類と用途</p> <p>9～12 回 設備照明の種類と用途</p> <p>13～14 回 ハンガー、スタンドなどの付属品</p> <p>15～16 回 照明用語</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>17～18 回 前期の復習</p> <p>19～22 回 仕込み図</p> <p>23～24 回 スタジオ照明</p> <p>25～28 回 DMX</p> <p>29～30 回 電源ケーブルの種類</p> <p>31～32 回 照明の仕込み</p>
---

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	舞台論(913)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
舞台業界で役立つ基礎的な内容を学び、知識や技術を習得することを目的とする。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
授業の開始時に前回の復習を行い理解を深める。教科書だけでなく、舞台機構などの写真をスクリーンに映し説明しながら授業を進めていく。前後期末にノートを集めて、確認する。						
教科書教材	舞台・テレビジョン照明<基礎編> 日本照明家協会（毎授業で使用） 舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（毎授業で使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 舞台方位 3～4 回 幕の種類、用途 5～8 回 舞台機構の種類と仕組み 9～10 回 尺貫法、平台の組み方 11～12 回 大道具と小道具 13～16 回 舞台用語
●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 前期の復習 19～20 回 イントレ、トラス 21～22 回 道具の構成 23～24 回 俯瞰図 25～26 回 舞台装置の種類と用途、劇場の種類 27～30 回 安全管理 31～32 回 舞台法規

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科 1 年

科目名	電気論(914)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	加藤 亜希恵				実務経験内容	
					なし	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像・音響・照明機材を操作するために必要な電気の知識、計算方法を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
映像音響業界で扱う電気の知識や安全性について講義を行う。資料は教科書のほか、スクリーンに投影したものを利用する。授業内容に合わせた問題を出題・解説し、知識を身に付け理解を深めていく。						
教科書 教材	電源の基礎知識					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1～2 回 ガイダンス (電気と映像音響分野の関係)</p> <p>3～4 回 単位の接頭語、カラーコード</p> <p>5～6 回 直流と交流</p> <p>7～8 回 直流による電圧・電流・抵抗</p> <p>9～10 回 直流回路の計算</p> <p>11～12 回 電流による様々な作用</p> <p>13～14 回 電池</p> <p>15～16 回 磁気と静電気</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>17～18 回 前期の復習</p> <p>19～20 回 交流の基礎</p> <p>21～22 回 交流回路の計算の基礎</p> <p>23～24 回 交流の基本回路</p> <p>25～26 回 R L C の組合せ回路</p> <p>27～29 回 交流回路の電力・三相交流</p> <p>30 回 整流について</p> <p>31～32 回 電気事故の防止</p>
---

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験 (100 点満点) の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点 (出席および受講の状況) を 20 点の配点とする。成績の評定は、S (90～100 点)、A (80～89 点)、B (70～79 点)、C (60～69 点)、F (60 点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・ 追試験 (100 点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>(2) 上述 (1) 以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1 点未満については切り上げ) を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1年

科目名	編集論(915)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	梅村 泰成				実務経験内容	
					[梅村]放送業界で制作を経験して培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像編集の手法・技法を体系的に学んでいく。 映像制作の過程においてポストプロダクションがどのような役割を担うのかも学んでいく。						
授業形態	講義	教室	355 教室	補助教員	なし	
教科書を中心に、実際に編集技能を学んでいく。必要に応じて動画を見せ、実際の編集技法をイメージしやすくする。						
教科書 教材	ポストプロダクション技術マニュアル【第9版】 日本ポストプロダクション協会（毎授業で使用）					

## 授業計画・内容

<p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1～2 回 ポストプロダクションの役割</p> <p>3～4 回 映像ができるまでの流れ</p> <p>5～6 回 テレビ放送の歴史</p> <p>7～8 回 映像信号について</p> <p>9～10 回 タイムコード</p> <p>11～12 回 VTR の仕組み</p> <p>13～14 回 映像特性</p> <p>15～16 回 映画鑑賞</p> <p>●授業時間：2 単位時間/回</p> <p>【後期】</p> <p>【1年次後期】</p> <p>17～18 回 前期のまとめ</p> <p>19～20 回 編集の方式</p> <p>21～22 回 オフライン・オンライン編集について</p> <p>23～24 回 リニア・ノンリニア編集について</p> <p>25～26 回 さまざまなカット割りについて</p> <p>27～28 回 イマジナリーラインについて</p> <p>29～30 回 音の編集について</p> <p>31～32 回 まとめ</p>
--

評価コード	3
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。</li> </ul> </li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1年

科目名	コンピュータ実習 1 (917)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 麻里				実務経験内容	
					[酒井]グラフィックデザイナーとして広告全般を制作してきた実績をもとにコンピュータの知識・技術を活かし指導する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	4	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
Word、Excel、PowerPoint および Illustrator、Photoshop の基本操作の実習をし、映像音響分野で使われる、仕込み図、企画書、プレゼン資料などが作成できるようなスキルを備えさせる。						
授業形態	実習	教室	355 教室	補助教員	なし	
授業開始時に前回の復習を行う。例題を出しながら説明することで、操作方法の理解を深めていく。また、課題を与え提出させる。						
教科書教材	なし					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回						
【前期】						
1 ～ 4 回 コンピュータの環境設定、基本操作の確認						
5 ～ 8 回 Word の基本操作						
9 ～ 12 回 文字の入力と編集						
13 ～ 16 回 文章の作成と編集						
17 ～ 20 回 表作成						
21 ～ 24 回 Excel の基本操作						
25 ～ 27 回 数値の入力と編集						
28 ～ 30 回 セルの編集・表計算						
31 ～ 32 回 前期まとめ						
●授業時間：2 単位時間/回						
【後期】						
3 ～ 36 回 PowerPoint の基本操作						
37 ～ 40 回 文字の入力と編集						
41 ～ 44 回 図形、写真の挿入と編集						
45 ～ 48 回 アニメーションの作成						
49 ～ 52 回 プレゼンテーションの実施						
53 ～ 56 回 Photoshop の基本操作						
57 ～ 59 回 写真の編集						
60 ～ 62 回 写真の加工・効果						
63 ～ 64 回 後期まとめ						

評価コード	13	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>	

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科 1年

科目名	テクニカル実習(A07)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	森田 紗季・酒井 早穂・石川 麻子・ 加藤 亜希恵				実務経験内容	
					[森田] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし指導する。 [酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし指導する。 [石川] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし指導する。	
週授業 時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	10	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
ケーブル・コネクタの種類・構造や、機材（付属機材）の種類・使用方法を学び、基礎的なシステム設営と撤去の方法を身につける。さらに作業を行う上で必要不可欠なケーブルの巻き方、舞台道具や備品の種類・安全性を考慮した設営方法を学ぶ。基礎知識を習得していくことで成長意欲を高め、自己研鑽を重ねるよう意識させる。						
授業形態	実習	教室	355 教室・ NKC イベントホール・ アートスタジオ・ 624 教室	補助教員	なし	
現場で適宜対応できる人員を目指し、段階に合わせた実技訓練を行う。基準レベルを設定の上、現場想定によるシステム構築や時間短縮をしながら、基礎レベルを向上させる。						
教科書 教材	プロ音響データブック<五訂版>、舞台テレビジョン照明<基礎編>、工具、テスター、ヘルメット (授業内で適宜使用)					

## 授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回						
【前期】						
1 ～ 5 回 実習ガイダンス						
6 ～ 10 回 小規模システムのデモンストレーション						
11 ～ 20 回 機材の確認①及びケーブル巻き						
21 ～ 30 回 機材の確認②及びケーブル敷設方法						
31 ～ 40 回 機材の取り扱い						
41 ～ 50 回 舞台道具の使用方法及び簡易システム①						
51 ～ 60 回 人物ライティング①及び特殊ケーブルの取り扱い						
61 ～ 70 回 人物ライティング②及び簡易システム②						
71 ～ 80 回 ケーブル製作①及び舞台備品の使用方法						
●授業時間：2 単位時間/回						
【後期】						
81 ～ 85 回 小規模システム①						
86 ～ 100 回 小規模システム②及びテント設営						
101 ～ 110 回 ケーブル製作②及び人物ライティング包括						
111 ～ 120 回 ケーブル製作③及びシステム構成						
121 ～ 130 回 中規模システム①						
131 ～ 135 回 照明吊り込み①及び卓（アナログ）の取り扱い						
136 ～ 145 回 中規模システム②						
146 ～ 150 回 照明吊り込み②及びシステム構築						
151 ～ 160 回 照明吊り込み③及び中規模システム③						

評価コード	13	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>	